

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	THE PIG SITE (2015.02.05)	フィリピンにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。フィリピンTarlac州で飼育されていたブタのHEVの分子特性と血清有病率を調査した結果、50%が抗IgG抗HEV抗体陽性で、23%がIgM抗HEV抗体陽性であることがわかった。
2	E型肝炎	ProMED-mail 20150209.3152769	フィリピンにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。フィリピンTarlac州で飼育されていたブタのHEVの分子特性と血清有病率を調査した結果、50%が抗IgG抗HEV抗体陽性で、23%がIgM抗HEV抗体陽性であることがわかった。
3	インフルエンザ	米CDC	米国におけるインフルエンザ(H1N1)変異型(H1N1v)の報告。2015年4月2日の週に、H1N1vによる感染症例1例が報告された。患者はブタ飼育畜産施設で働いていたが、疾患発症前の週はブタとの直接接触は無かった。ヒト-ヒト感染は確認されていない。
4	インフルエンザ	ProMED-Mail 20150726.3537522	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。2015年に入り米国で3例目の症例がミネソタ州にて発生した。ヒト-ヒト感染は報告されていない。発症の前の週にブタとの濃厚接触があったことが報告された。
5	インフルエンザ	ProMED-Mail 20150304.3205901	インドにおけるインフルエンザのアウトブレイクの報告。2015年2月28日までに症例数は19,000例を超えている。
6	H1N1インフルエンザウイルス	J Virol. 2015 Mar 11. pii:JVI00087-15.[Epub ahead of print]	ブタ腎上皮細胞をヒト由来およびブタ由来のインフルエンザトリプル再集合(TRIG)ウイルスに混合感染させた際、再集合率は23%であり、ノイラミニダーゼ糖タンパク質への偏りを伴った。ヒト肺上皮細胞には、ヘマグルチニン、ノイラミニダーゼ、RNAポリメラーゼPB2の遺伝子において再集合は形成しなかった。TRIGカセットがヒトと比較しブタを優先的に選択する種特異的な再集合の場であることを裏付けるとの報告。
7	H1N1インフルエンザウイルス	ProMED-mail 20150224.3186658	インドにおけるブタインフルエンザ(H1N1)の報告。Health Ministryによると、インド国内において、合計14,484例が感染し、2015年2月22日までに833例が死亡したとのこと。
8	H1N1インフルエンザウイルス	ProMED-mail 20150225.3191533	キューバにおけるブタインフルエンザの報告。2015年2月18日、80匹のブタがブタインフルエンザの可能性があると診断され屠殺された。
9	H1N1インフルエンザウイルス	ProMED-mail 20150304.3205901	インドにおけるブタインフルエンザの報告。2015年2月28日までにインドにおけるヒトのブタインフルエンザ感染例は190,000例を超え、2ヶ月間で1,041例に達した。
10	H1N1インフルエンザウイルス	ProMED-mail 2015039.3217928	ネパールにおけるブタインフルエンザの報告。ブタインフルエンザの兆候で入院した患者が2015年2月28日に死亡した。この症例は2015年初めてのブタインフルエンザによる死亡例であるとのこと。
11	A型インフルエンザウイルス検査陽性	Microbiol Immunol. 58(2014)327-341	日本において分離されたブタインフルエンザウイルスの報告。2013年、日本において3種類のブタインフルエンザの再集合ウイルス(2種類のH1N2型、1種類のH3N2型)が症候性のブタから分離された。これらのウイルスは汎発流行性ブタインフルエンザA(H1N1)2009及び地域流行性ブタインフルエンザウイルスの遺伝子を有していた。
12	C型インフルエンザウイルス検査陽性	PLoS Pathog. 9(2013) e1003176	2011年に米国オクラホマ州の豚から、ヒトインフルエンザCウイルスに関連した新型インフルエンザウイルスの分離株が発見された。このウイルスは暫定的にG/Oklahoma/1334/2011(G/OK)ウイルスと命名された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
13	鳥インフルエンザ	BMC Infect Dis. 15:237:2015/06/24	中国におけるインフルエンザ(H7N9)の報告。2014年1月18日、上海において医師がH7N9ウイルス感染により死亡した。この医師は家禽との接触はなく、家禽市場を訪れたこともなかった。発症前、3例の発熱患者と1例の重篤な肺炎患者との接触があり、抗H7N9陽性の2名の医療従事者と35回の密接な接触があったことが確認されている。
14	エボラ出血熱	臨床獣医 Vol.32, No.11	エボラウイルスをブタへ実験感染させたところ、重篤な呼吸器症状を示した。ウイルス排泄経路は鼻咽頭であり、口・鼻からの排泄ウイルスによる感染成立が確認された。
15	口蹄疫	OIE 2015年5月10日付 け	中国におけるブタの口蹄疫の報告。2015年5月1日、中国 Hubei,Jingzhou,Gonganの農場で口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例179例、症例25例、処分179例が報告されている。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
16	口蹄疫	ProMED-mail 20141219.3043366	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2014年12月19日、韓国で4例の口蹄疫が発生した。最初の確定例が発生してからすでに14,491頭が処分されている
17	口蹄疫	ProMED-mail 20150107.3077530	中国における口蹄疫の報告。2015年1月6日、Ministry of Agricultureは中国東部のAnhui Provinceでブタが口蹄疫(血清型A)に感染していることを発表した。556例のブタからウイルスが検出されそのうち314例が1月2日に死亡した。感染したブタおよび一緒に飼育されていたブタ56例が処分された。
18	口蹄疫	ProMED-mail 20150208.3152424	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2015年2月7日、Ministry of Agricultureは、seoulの80km西にあるIcheonの牧場での1例の口蹄疫感染例について発表した。South Chungcheong provinceの牧場でも2例の感染例が確認されている。
19	口蹄疫	OIE 2014年9月11日付 け	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2014年7月27日および8月6日、Gyeongsangbuk-doおよびGyeongsangnam-gunにおいて口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例3,292例、症例1,317例、処分例1,317が報告されており、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
20	口蹄疫	OIE 2014年9月15日付 け	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年9月11日、Zabajkal Skij Krayにおいて口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ウシにおいて疑い例528例、症例104例、処分例93例、ヒツジおよびヤギにおいて疑い例151例、ブタにおいて疑い例142例が報告されている。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
21	口蹄疫	OIE 2014年11月25日付 け	中国におけるブタの口蹄疫の報告。2014年11月18日、Jiangsuにおいて口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例34例、症例4例、処分例35が報告されており、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
22	口蹄疫	ProMED-mail 20141204.3010701	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2014年12月4日、Agriculture Ministryは、seoulの東南にあるJincheon countryにある養豚場でブタの口蹄疫感染例を確認したと発表した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	口蹄疫	OIE 2014年12月5日付け	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2014年12月3日 Gyeongsangbuk-doにおいて口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例15,884例、症例10,115例、処分例10,115例が報告されており、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
24	口蹄疫	ProMED-mail 20150107.3077530	中国における口蹄疫の報告。2015年1月6日、Ministry of Agricultureは中国東部のAnhui Provinceでブタが口蹄疫(血清型A)に感染していることを発表した。556例のブタからウイルスが検出されそのうち314例が1月2日に死亡した。感染したブタおよび一緒に飼育されていたブタ56例が処分された。
25	ロタウイルス	Vet Microbiol. 173(2014)27-37	英国におけるロタウイルスの遺伝子型に関する報告。英国において症候性のブタ由来ロタウイルスの遺伝子型について、G型(VP7遺伝子)を6種類(G2、G3、G4、G5、G9、G11)、P型(VP4遺伝子)を6種類(P[6]、P[7]、P[8]、P[13]、P[23]、P[32])特定した。
26	コロナウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1347-1350	2014年2月、米国においてブタデルタコロナウイルス(PDCoV)が確認されたとの報告。このウイルスの塩基配列を決定したところ、香港で検出されたPDCoVの塩基配列に対して99~100%の類似性を示した。
27	コロナウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1594-1595	2014年2月7日~4月9日の間に、米国の10州に飼育されている下痢症状を呈したブタからサンプルを収集し、解析した結果、9州のブタからブタコロナウイルスHKU15が発見された。このウイルス株は2012年に香港で発見されたブタコロナウイルス株HK-15-155、HK-15-44との高いヌクレオチド類似性(98.9~99.2%)を有していることが判明した。
28	コロナウイルス感染	J Disaster Res. 7(2012)297-302	ウシコロナウイルスのヒトへの感染の可能性に関する報告。ウシコロナウイルスの生態の多くが不明であるが、近年、ウシコロナウイルスが比較的容易に宿主域バリアを超えることが示唆されており、ヒトへの感染の可能性も考えられるとの報告。
29	コロナウイルス感染	N Engl J Med. 372(2015)846-854	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルスの報告。2014年1月1日から5月16日までにサウジアラビア健康省に報告されたジェッダにおけるMERSコロナウイルス感染の全症例255例について調査した結果、93例が死亡し、全体のうち64例は無症状であった。191例の症状のある患者のうち40例が医療従事者であった。
30	エンテロウイルス感染	Trop Anim Health Prod. 46(2014)523-528	ブラジル南部、南東部、中西部の農場から、授乳期のブタ22頭および保育期のブタ18頭を無作為に選択し、下痢または通常の糞便を40サンプル収集したところ、ブタテシオウイルス、ブタサベロウイルス、エンテロウイルスGが検出された。
31	カリシウイルス検査陽性	J Vet Med Sci. 76(2014)1045-1050	日本において発見された新型カリシウイルスの特性評価の報告。日本のブタの糞便サンプルから採取した新型カリシウイルスSt-Valenrien-Like virus株(NUP-24/JP)のゲノム特性評価を行った。系統発生解析により、NUP-24/JPは他のSt-Valenrien-Like virus株、特に米国にて発見されたNC-WGS93C/USに対して高い関連性をもっていた。
32	クレブシエラ感染	Antimicrob Agents Chemother. 59(2015)4349-4351	中国におけるKlebsiella pneumoniae感染の報告。中国の新生児におけるbla _{NDM-1} 遺伝子を有するKlebsiella pneumoniae感染症例8例について、多座位配列タイピングは7つの分離株がクローン的に関連していることを示し、シーケンスタイプ17(ST17)として確認された。1つの分離株はST433に属していた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	ウイルス	Biologicals.43(2015)31-36	ヘパリンの原料となる欧州ブタ由来の小腸粘膜について、高性能配列解読装置 (HTS) を用いてウイルス負荷を評価した結果、最も多い感染ウイルスとしてシルコウイルス科、パルボウイルス科を特定した。
34	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	北海道獣医師会雑誌. 58(2014)327	生後2~4ヶ月齢の子牛にL型非定型BSE感染10%脳乳化剤を接種した結果、接種後13ヶ月頃より、走行時に後肢のスリップ、歩調の乱れ、休息スコア(連続する2時間の歩数が20歩以下である時間)の低下が見られた。
35	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20141128.2997464	ポルトガルにおけるBSEの報告。2014年11月7日ポルトガル、ブラガにおいてBSE監視計画の検査にて定型BSEの雄ウシ1頭が確認された。本疾患の発生源または感染源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
36	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20141225.3055021	ルーマニアにおけるBSEの報告。2014年12月22日ルーマニアの屠殺場において臨床兆候のないウシ1頭で定型BSEが確認された。本疾患の発生源または感染源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
37	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20150129.3129692	ノルウェーにおけるBSEの報告。2015年1月20日、ノルウェー獣医学研究所は、BSEサーベイランスプログラムの一環として行われた中枢神経系検体の検査から、ノルウェーで屠畜された雌牛1頭にBSE感染の疑いがあるとノルウェー食品安全局に報告した。当該ウシは15歳のノルウェー生まれで、2015年1月12日に殺処分される以前には神経症状等の臨床症状は呈していなかった。
38	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2015年2月18日	カナダにおけるBSEの報告。2014年2月4日、BSEサーベイランスプログラムの一環として検体採取したカナダのアルバータ州の歩行困難な肉用繁殖雌ウシにおいて、定型BSE(C-BSE)が確認された。
39	ブドウ球菌感染	PIGWORLD (2015.02.05)	英国における家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。英国動植物衛生省 (APHA) により、東部イングランドにおいて子ブタのLA-MRSAが特定された。
40	ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS (2015.02.09)	英国における家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。英国動植物衛生省 (APHA) により、東部イングランドにおいて子ブタのLA-MRSAが特定された。
41	ブドウ球菌感染	PIG 333(2015.02.11)	英国における家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。英国動植物衛生省 (APHA) により、東部イングランドにおいて子ブタのLA-MRSAが特定された。
42	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.03.04)	ノルウェーにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会はLA-MRSA感染の疑われる3つの養豚場について食品安全局 (FSA) に報告した。
43	ブドウ球菌感染	PIG 333(2015.03.06)	ノルウェーにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会はLA-MRSA感染の疑われる3つの養豚場について食品安全局 (FSA) に報告した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
44	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.03.31)	ノルウェーにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会は新たにLA-MRSA感染の疑われる2つの養豚場について食品安全局(FSA)に報告した。
45	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.04.13)	ノルウェーにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。LA-MRSA感染の疑われる3つの養豚場について調査され、3つのうち1つは陰性で1つは陽性の結果となり、1つは結果待ちとの報告であった。
46	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.05.07)	ノルウェーにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会は新たにLA-MRSA感染の疑われる2つの養豚場について食品安全局(FSA)に報告した。
47	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.05.22)	ノルウェーにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会は西ノルウェーのHaugalandet地区の1つの農場におけるMRSA感染を確認した。
48	ブドウ球菌感染	PIG 333(2015.05.27)	ノルウェーにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の報告。ノルウェー獣医師協会は西ノルウェーのHaugalandet地区の1つの農場におけるMRSA感染を確認した。
49	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.06.11)	ノルウェーにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の報告。新たに西ノルウェーのHaugalandet地区の6つの農場におけるMRSA感染が確認された。
50	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.06.19)	英国における家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。英国のスーパーマーケットで販売されていた英国産のソーセージとブタ挽肉からLA-MRSAが検出された。Wellcome Trust Sanger研究所と実施した遺伝子構造分析で抗生物質耐性遺伝子を確認したところ、LA-MRSA CC398として知られているMRSAの一種であることが明らかとなった。
51	ブドウ球菌感染	PIGWORLD (2015.06.19)	英国における家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(LA-MRSA)の報告。英国のスーパーマーケットで販売されていた英国産のソーセージとブタ挽肉からLA-MRSAが検出された。Wellcome Trust Sanger研究所と実施した遺伝子構造分析で抗生物質耐性遺伝子を確認したところ、LA-MRSA CC398として知られているMRSAの一種であることが明らかとなった。
52	炭疽	ProMED-mail 20150126.3120453	アルゼンチンにおける炭疽の報告。Buenos Aires州の農場においてウシの炭疽のアウトブレイクが発生した。
53	炭疽	ProMED-mail 20150406.3279998	インドにおける炭疽の報告。インドにおいて、2015年3月29日からブタ100例以上、ウシ8例の死亡が確認された。2014年12月にゾウ1頭が炭疽で死亡したことから、これらの死亡原因も炭疽である可能性があり、検査が進められている。
54	パチルス感染	J Clin Microbiol. 53(2015)1990-1992	イタリアにおけるActinobacillus suis/equuliのヒト感染の報告。一般的にウマまたはブタの日和見病原菌として知られているActinobacillus suis/equuliにより髄膜炎及び敗血症に罹患した15歳の患儿が報告された。罹患前の農場への訪問が感染源として疑われている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
55	旋毛虫症	ProMED-mail 20150207.3149673	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。アルゼンチン、Buenos AiresのPehaujoで見つかった旋毛虫症について、これまで約170例のヒトが影響をうけ、504匹のブタが屠殺のために輸送された。
56	旋毛虫症	ProMED-mail 20150509.3352378	フランスにおける旋毛虫症の報告。2015年5月7日、1トンのブタ肉加工食品が旋毛虫症の症例報告により、フランス警察により押収された。
57	旋毛虫症	ProMED-mail 20150612.3431375	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。アルゼンチンの南部の喜望峰の街とヴィラ・メルセデス市の間で旋毛虫症が確認された。